

あぜみち

No.7
平成25年8月1日

営農センター TEL 782-1171

稲作技術情報

～品質V字回復宣言～

1. 生育状況・今後の管理について

現在の生育状況は、下表のように指標値に比べ、塩沢地区は、**ほぼ指標値並み**、湯沢地区は、**茎数多め、葉色は濃く**なっています。最近の低温・少照傾向のため、幼穂の伸びは緩やかとなり、出穂期は平年と比べ1～2日程度早く、ほぼ平年並みに近づいたと見込まれます。今後の高温により、土壌水分や後期栄養の不足から品質・収量低下も考えられます。

2回目の穂肥は、後期栄養確保のため確実に施用しましょう。加えて、**水管理は田面が乾きすぎないよう、飽水管理の実施**を行きましょう。

※2回目の穂肥以降に葉色が極端に褪める稲姿の場合は、出穂直前(3日前)の穂肥も検討して下さい。

※基肥一発肥料を使っている圃場で、葉色がSPD値で32を下回る恐れがある場合、出穂10日～7日前に穂肥施用を検討して下さい。

生育調査結果

7月25日現在

地 区	草丈 (cm)	茎数 (本)	葉色 (SPAD)
H25塩沢地区 (9ヶ所)	81.8	21.2	33.2
H25湯沢地区 (2ヶ所)	81.8	26.3	35.2
コシヒカリ指標値	83	21	32

今後の気象予報 (7月25日新潟地方気象台発表の3ヶ月予報より)

8月	平年と比べ晴れの日が多く、気温は平年並みまたは高い確率とも40% 降水量は、平年並みまたは少ない確率とも40%
9月	天候は数日の周期で変わり、気温は、平年並みまたは高い確率とも40%

注意!

県内カメムシ注意報発令中!!

昨年に続き、県内全域で斑点米カメムシ類が平年より多く確認されています。
草刈りや薬剤散布を行い、斑点米の発生を防ぎましょう!

※対策の詳細内容は2Pをご覧ください。

2. 穂肥散布 2回目穂肥

出穂10日～7日前に稲姿・葉色から判断しましょう。

1回目の穂肥を施用していない場合は、確実に2回目の穂肥を実施しましょう。

※草丈が長く、葉色が濃い場合は営農課までご相談下さい。

2回目穂肥施肥基準

時期	施肥量	効果
<ul style="list-style-type: none"> 出穂10日～7日前 (幼穂長10～12cm) 草丈85cm 葉色3.5以下 (群落測定) 	窒素成分 1.0～1.5kg (魚沼ロマン穂肥7～10kg) (魚沼ロマン有機穂肥10～15kg)	<ul style="list-style-type: none"> 登熟歩合の向上 千粒重の増大

※魚沼ロマン有機穂肥を施用する場合は、通常より3日程度早い施用が効果的です。

※穂肥は、収量・品質・食味を左右する重要な技術になります。多肥になり過ぎると「玄米中窒素濃度の増加による食味の低下」が考えられます。適正量施肥をお願いします。

3. 病害虫(いもち病・カメムシ類・イネアオムシ)防除

(1) いもち病防除 ～葉いもちの発生を確認～

7月中旬以降、塩沢地区(島新田、吉山、君沢)でBL、従来コシ問わず、葉いもちの発生が確認されています。今年は梅雨時期が長く、湿度の高い日が続いており、いもちが発生しやすい状況です。圃場を見回り、発生が認められた場合や、コシヒカリBL以外の品種(もち品種、従来コシなど)は、特に注意して圃場を見回り、薬剤防除を必ず実施してください。

★おすすめ防除薬剤★

薬剤名	施用時期	散布量(10a当り)	価格(税込)
ブラシン粉剤DL(3kg)	収穫21日前まで	3～4kg	1,197円
ブラシンフロアブル(500ml)	収穫30日前まで	1,000倍	2,341円

(2) カメムシ類 ～注意報発令中～

塩沢、湯沢管内の病害虫発生予察調査において、平年よりも多くのカメムシ類が確認されています。特にアカヒゲホソミドリカスミカメの発生量が多く、畦畔に雑草の多い場所では、より多く確認されています。今後、カメムシ防除を確実にいきましょう。

★おすすめ防除薬剤★

薬剤名	散布量(10a当り)	価格(税込)
Mrジョーカー粉剤(3kg)	3～4kg	1,344円
MrジョーカーEW(500ml)	2,000倍	5,649円
スタークル粒剤DL(3kg)	3kg	3,297円

※散布量は散布面積10a当りの散布量を厳守し、散布範囲は必ず本田に接する農道・畦畔を含めて下さい。不明な点は営農センター(782-1171)までお願いします。

(3) イネアオムシ

本田内で葉がカスリ状・又は鍵状に食害されているものが多く見られる場合は、**イネアオムシの被害**が疑われます。イネアオムシの防除基準・方法・薬剤については、営農課へご相談ください。

4. 飽水管理の効果・注意点

(1) 飽水管理の新たな目的 (カドミウム吸収抑制)

食品の安全・安心志向の観点から、「食品衛生法」で定める米のカドミウム含有量の基準値が昨年3月より改正され、今までは1mg/kg(1ppm)だったものが、0.4mg/kg(0.4ppm)に変更となりました。

仮に基準値を超えた米が出た場合、市場へ流通できないだけでなく産地全体への風評被害が発生する恐れがあります。

風評被害を発生させないためには…

カドミウムの吸収を抑制する必要があります。

(2) カドミウムが吸収されやすい条件

① 土壌中の濃度が高い場合

② 土壌が酸化(乾燥)している場合

③ 土壌の酸性度(pH)が酸性に偏っている場合

※ 土壌中のカドミウム濃度が低い場合でも、②・③いずれかの条件下では吸収量が増加する可能性があります。

(3) カドミウム吸収抑制方法 (飽水管理)

ほ場の乾田日数が多くなると、米に含まれるカドミウム含有量も多くなる傾向があります。田面を乾かし過ぎない管理(飽水管理)を行い、カドミウムが吸収されにくい土壌状態を保つようにしましょう。

カドミウム吸収抑制方法(飽水管理)のポイント

- 出穂前25日～出穂後25日間(50日間)は、継続して実施
- 高温期に湛水状態が長期間続く場合は、根腐れしないように注意
- 刈取り時に地耐力が低下し、刈取りに支障がないように注意

質問・疑問

Q 飽水管理を行うと、刈取り作業時にコンバインがぬかりすぎて刈り取りができない場合があるが、その場合どうしたらよいか?

A 刈取り時期に合わせて田面が湿る程度の間断灌水に切り換えてください。これにより、地耐力を確保しながら、土壌が乾きすぎない状態を保ち、刈り取り作業に支障が少なくなると考えます。

秋野菜の作り方（白菜、キャベツ、大根、玉ネギ）

◎ハクサイ（白菜）年内穫り

種子の発芽適温は、18℃～22℃。冷涼な気候が適し、生育適温は20℃前後で、25℃以上では軟腐病などにかかりやすく、10℃以下では生育が緩慢になり5℃以下では生育が停止します。結球適温は一般に15℃～16℃です。

1.播種時期

8月10日～25日頃まで、生育日数75日程度以上の品種は、8月10日～18日頃播種します。遅くなると、十分結球しないので、注意が必要です。

2.おもな品種と特性

品種名	特 性
耐病60日	秋穫り早生品種で8月下旬播種ができる。60～65日で収穫できる極早生タイプである。
豊秋60日	黄芯系品種で、播種後60～65日で収穫可能なタイプ。夏蒔き秋冬収穫に適する。
空海65(CR) ／CR千秋65	根コブ病抵抗性品種の65日タイプです。
ストロング CR75	根コブ病抵抗性品種で食味も良い。75日～80日の中生品種。
王将／金将2号	85日タイプの晩生大玉種



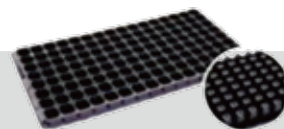
※品種名にCRと入っているものは、根こぶ病抵抗性品種ですので、ネビジン粉剤等の使用を抑えることができます。

3.育苗

栽培方法には、種を畑に直接まく「直まき栽培」と、苗床を作ってから植える「移植栽培」の2つの方法があります。※ねこぶ病予防には育苗時からの防除が必要です。

- (1)「直まき栽培」は、畝幅60～75cmでかまぼこ型の畝を作り、ビール瓶等で45～50cm間隔に軽く押しつけて3～4粒ずつ種を蒔き、種が見えない程度に覆土をします。更に切りわらやもみ殻を軽く一握りずつかぶせておくと乾燥防止になり、発芽ぞろいも良く、発芽後の降雨による土の跳ね上がり防止になります。本葉4～5枚で、1本立ちにする。
- (2)「移植栽培」は、128穴のセルトレーやポリポット(6～9cm)を用いる。プラグポットの場合は1粒ずつ蒔き、本葉2枚でポリポットに鉢上げし、本葉4～5枚時に植え付ける。ただし、大面積作付けの場合は、鉢上げしないで、本葉3枚程度で定植する。ポリポットの場合は3～4粒ずつ種をまいて、本葉2枚で1本立ちし、本葉4～5枚時に植え付ける。

セルトレー（1セルトレー28穴）育苗のポイント



- ①床土は、市販のプラグ培土（プラグメイト）を使用するとよい。
- ②床土は、セルトレーの穴に均一になるようにつめる。（つめ方が悪いと発芽不良になる。）
- ③播種したセルトレーは、育苗箱に乗せ、ブロックやアングル等で隙間を作り、その上に並べます。
- ④覆土は出来るだけ薄くする。
- ⑤播種後充分灌水し、新聞紙で被う。
- ⑥播種してから2～3日で発芽する。発芽したら新聞紙を早めに取り除く。
- ⑦灌水は朝1回とするが、高温乾燥時には、葉水程度に軽く灌水する。
- ⑧追肥は、育苗期間中に生育を見ながら、液肥400倍を1～2回程度施す。

4.本畑の準備

施肥例

(kg/10m²)

肥料名	基肥量	追肥量		備考
		1回目	2回目	
完熟堆肥	30.0			追肥1回目は定植10日後程度、活着したら施す 追肥2回目は定植1ヶ月後を目途に施す
粒状苦土炭カル(M10)	2.4			
苦土重焼燐	1.0			
MMB燐加安	2.0			
NK化成		0.3	0.3	

◎定植1週間前までに肥料を混和して準備する。この際、根こぶ病予防には、フロンサイド粉剤0.4kg/10m²またはネビジン粉剤0.3kg/10m²を混和する。ただし、抵抗性品種(CR)の場合は軽減できる。ネキリムシ・ヨトウムシ予防にはダイアジノン粒剤5を40～60g/10m²を混和しておく。

5.定植

は種後25～35日で定植する。本葉4～5枚程度の若苗で植えるほうが良い。

栽植密度	畝幅	140cm×株間	40cm	2条植え
もしくは	畝幅	75cm×株間	40cm	1条植え
早生はやや密植・中晩生は大きくなるので畝幅・株間を大きくする。				

6.雑草・病害虫防除

雑草が心配な場合は黒マルチまたは、除草剤を使用する。

(1)除草剤の使用法(畑地1年生雑草に効果)

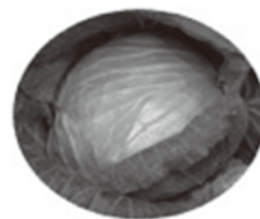
薬剤名	使用時期	10m ² 当り使用量		使用方法	薬効など
		薬量	希釈水量		
ラッソー乳剤	定植8日後まで	2m ²	1ℓ	株間散布	タデ科・アカザ科には効果が劣る
クレマート乳剤	定植前	2～3m ²	1ℓ	全面散布	キク科・ツユクサ科には効果が劣る
クレマートU粒剤	定植前～直後	40～60g		全面散布	キク科・ツユクサ科には効果が劣る
トリアノサイド粒剤	定植前穴掘り前	40～60g		全面散布	ツユクサ・キク・アブラナ科を除く
ナブ乳剤	雑草生育期、収穫30日前まで	2m ²	1ℓ	雑草茎葉散布	イネ科1年生雑草にのみ効果、スズメノカタビラは除く

(2)害虫防除

◎アオムシ・コナガ・アブラムシ類予防には定植時に、オンコル粒剤1を3～6g/株、またはジェイエース粒剤(オルトラン粒剤)2g/株を植え穴に施す。

◎植え付け直後は、コオロギ・ヨトウムシ・ネキリムシに茎を食害されやすいので、ネットを利用するか、またはデナポン5%ベイトを散布する。

◎キャベツ(甘藍) 年内穫り



1.播種時期～育苗は7月1日(No.6)号を参照ください。

2.本畑の準備

施肥例

(kg/10㎡)

肥料名	元基肥	追肥量		備考
		1回目	2回目	
完熟堆肥	20.0			追肥1回目は定植10日後程度、活着したら施す 追肥2回目は定植1ヶ月後を目途に施す
粒状苦土炭カル(M10)	2.4			
苦土重焼燐	1.0			
MMB燐加安	2.0			
NK化成		0.7	0.7	

※定植1週間前までに肥料を混和して準備しておく。この際、根こぶ病予防には、フロンサイド粉剤0.4kg/10㎡またはネビジン粉剤0.3kg/10㎡を混和しておく。ただし、抵抗性品種(CR)の場合は軽減できる。ネキリムシ・ヨトウムシ予防にはダイアジノン粒剤5を40～60g/10㎡を混和しておく。

3.定植

は種後25～35日で定植する。本葉4枚程度の若苗で植えるほうが良い。

栽植密度	畝幅	140cm×株間	40cm	2条植え
もしくは	畝幅	75cm×株間	40cm	1条植え

4.雑草・病虫害防除

ハクサイの項を参照のこと

◎ダイコン(大根)

温
度
【 基本的には、涼しい温度でよくできる作物です。
発芽温度15～35℃、10℃以下、40℃以上で発芽障害が発生。
生育適温は17～20℃(昼間16～20℃、夜間8～15℃)です。
根の肥大適温(地温)13～18℃…5℃以下で生育が停滞・停止する。
30℃以上で生育が抑えられ、障害が出るようになります。

土
壌
条
件
【 排水が良く耕土が深く大根が十分に育つ余裕があること。
保湿力のある砂地が良い物ができる。



1.播種時期

8月下旬～9月上旬(少し遅めに播種すると良い)

1穴に3～4粒、畑に直接タネをまき、本葉5枚までに1本に間引きます。

タネまき後、60日ぐらいで収穫できます。

2.品種と特性

品種名	特 性
耐病総太り	太りがよく、特にす入りが遅い良質の青首総太りです。肉質も良い。
秋 風 (耐病総太)	ゆっくりと太るため、特にす入りが遅く、長期間畑に置ける青首総太りです。ダイコン本来の味が楽しめる。
秋の郷 (耐病総太)	す入りが遅く、長期間畑に置ける青首総太りです。肉質も良く、寒さに強い。
秋の宴 (耐病総太)	葉が立ち性で暑さや病気に強く、早まきから遅まきまでできる。肌がきれいなす入りの遅い青首総太りダイコン。肉質も良い
耐病宮重	す入りの遅い青首の長太り型大根、総太りより長くなるので沢庵用に適する。深耕しないと曲がりやすくなる。
YRくらま	青首総太り系の大根で、萎黄病抵抗性品種です。
夏 風	晩春～秋まで蒔ける、早太りの青首総太り大根。 耐暑性があり萎黄病、ウイルス病、生理障害に強く晩春から蒔ける。 夏から初秋蒔きで播種後55日頃から収穫でき根長35cm。 根径7.7cm根重1.3kg位で尻の肉付きの良い品種です。

3.施肥例

(kg/10㎡)

肥料名	元基肥	追肥量		備 考
		1回目	2回目	
粒状苦土炭カル(M10)	1.2			追肥は間引き終了後 堆肥は岐根に成りやすいので、完熟以外使わない。
苦土重焼燐	0.2			
MMB燐加安	1.0			
NK化成		0.2	0.2	

4.間引きのポイント

- 1.貝割葉が完全に開いたときに込み合ったところを間引く。
- 2.本葉2～3枚の時期に間引いて2本にする。
- 3.本葉3～5枚の時期に間引いて1本立ちにする。

★粒状苦土炭カルについて

昨年の予約注文時から、要望の高かった粒状苦土炭カル(M-10)の取り扱いを始めました。酸度中和の場合、DL消石灰量の3割増量が必要ですが、粒状なので散布しやすく、マグクリーン(生石灰)のように長時間経過しなくてもいい資材です。

品 名	アルカリ分	苦土(Mg)	通常使用量kg/10a	DL消石灰を1とすると	経過日数
M-10 (粒状苦土炭カル)	55	10	130	1.3倍	5日程度
マグクリーン (粒状生石灰)	100	30	70	0.7倍	10～14日
DL消石灰	72	0	100	1.0倍	7～10日

◎タマネギ(玉葱) 秋植え翌夏穫り

夏～初秋蒔きで翌年の7月穫りの作方。耐寒性が強く、冷涼な気候を好む。肥えた土壌を好む。酸性に弱く、PH6.3以上でよく育ちます。

1.播種時期

8月中旬～下旬に播種する。遅くなると、苗が太くならず、越冬できなくなる。

2.おもな品種と特性

品種名	特 性
O・K黄玉葱	球重290g、甲高で、12月まで貯蔵できる。
ネオアース	球重250～350g、翌3月まで貯蔵できる。腰高種
交配貯蔵玉葱	球重250～350g、12月まで貯蔵できる。
玉ねぎラピュタII	球重300～350g、10月頃まで貯蔵できる。
泉州中高黄玉葱	球重300g、甲高で、10月頃まで貯蔵できる。古くから作られている。



3.育苗

◎本畑10㎡で1㎡の苗床が必要、苦土炭カル240g・化成100gを散布し混和しておく。

◎種10～20mℓを5cm間隔の条播で5mm間隔で蒔き、薄く覆土をし、さらにその上に敷きワラをし、発芽したら取る。

◎間引き1回目は子葉が伸びきった頃に混んだ所を、2回目は本葉2枚頃に株間3cm程度に揃える。

4.本畑の準備・施肥例

(kg/10㎡)

肥料名	基肥量	追肥		備 考
		1回目	2回目	
堆肥	15.0			追肥1回目は植え付け20日後 追肥2回目は融雪直後
粒状苦土炭カル(M10)	2.4			
苦土重焼燐	0.3			
MMB燐加安	1.0			
NK化成		0.2	0.4	

5.定植

◎必要苗は250～350本/10㎡で、10月上～下旬に植えつける。

◎畝間120～140cm、畝幅90cm×株間12cm、4～5条植えにする。

◎苗の太さは鉛筆程度、6～7mmがちょうどよい。細いと冬越しできない。太すぎるとトウ立ちや分球する。

◎雑草が心配な場合は、ポリマルチを利用する。